

# 大名みえ子です

2016. 4. 28 No.321  
東海村村松 2401-2  
電話・fax 029-284-0761

## 東海原発解体に伴う L3 廃棄物埋設計画に関する調査始まる

議会原子力問題調査特委員会

議会原特委（10名）は、4月25日、村長から審議依頼を受けた原電東海発電所解体に伴って発生した放射性廃棄物L3の埋設計画の調査の一貫として、原電のL3廃棄物埋設計画と、原科研のJPDR解体廃棄物埋設に関する説明を聞きました。説明は、原電テラパークの会議室で行われ、説明後は、現地視察も行われました。



JPDR解体に伴った極低レベル放射性コンクリート(フレキシブルコンテナに収納)の砂地への素掘り埋設 -工事 95年11月~97年9月-

動力試験炉（JPDR）の解体に伴って発生した放射能レベルの極めて低い極低レベル放射性廃棄物（コンクリート）は、日本原子力研究開発機構・東海研究開発センター原子力科学研究所・廃棄物埋設施設にて1995年より試験的に埋設処分が実施されています。2025年までが保全期間とされ、定期的な処分地の巡視、特定行為の禁止や抑制などにより管理されているとのことです。

原電のL3廃棄物の処分計画は、原科研の試験を参考に立てられているとのことですが、埋設施設の耐震構造は、熊本地震発生を考慮されていない、耐津波構造は、想定津波が3.8mで、埋設地は約8mの位置だから問題ないとの説明がなされました。

説明を受けた委員からこれらについて質問が出されましたが、原電は「地震想定の変更は、国が行っていない」、「施設は、壊れても良いとされるCクラス施設なので、3.8mで良い（東日本大震災では5.4mが襲来）。仮に5.4mの津波が来ても、埋設施設地までは到達しない」などにとどまり、納得は得られませんでした。委員会の調査は、引き続き行われます。

## 九州地方地震被害支援の募金にとりくんでいます



日本共産党東海村委員会は、24日、イオン駐車場前で、熊本県・大分県を中心とする九州地方地震による被害支援の一環として募金活動に取り組みました。

東日本大震災を経験した本村だからこそ、見舞う気持ちが強いのが感じました。1時間の行動で、8,172円の募金が寄せられました。

茨城県委員会を通じて中

央委員会へ送り、被災地自治体へ届けます。

村委員会では、5月1日にも、場所を変えて募金にとりくむ予定です。もし通りがかりましたら、ぜひご協力をお願いします。

